

◎景気ウォッチャー調査[2018年12月]

2018年12月の中国地域調査結果の概況

■景気の現状に対する評価

現在の景気を3か月前と比較するとその評価は次のとおりであった。

景気の現状判断D I (合計)は、前月を3.1ポイント下回る46.9となった。

分野別にみると、家計動向関連は、「やや良くなっている」の回答の割合が減少し、「宝飾品の売上がクリスマス期間だけでも前年より約20%減少している。また、量販店での低価格品に消費が流れている影響で、眼鏡の購入客数も激減している。」(その他専門店)、「新型車が出ているにもかかわらず、来客数の減少と成約率の低下が極端である。」(乗用車販売店)等の理由から、「悪くなっている」「やや悪くなっている」の回答の割合が増加したため、前月を3.9ポイント下回る45.5となった。

企業動向関連は、「今までは年末ギフトの時期が荷発着のピークであったが、大手通信販売会社の歳末セールの際に移行している。電子商取引の増加で発着個数が計画以上となっており、人材確保がままならない状況が続いている。」(輸送業)、「年末商戦的なキャンペーンはなく、市場にも特別な需要増は見られず、例年どおりの売上で推移している。」(通信業)等が今月の特徴的なコメントで、どの回答の割合も前月と変わらず50.0となった。

雇用関連は、「やや良くなっている」の回答の割合が減少し、「3か月前と比べて求職者の動きが停滞しているが、年末年始を挟むため、年明けから動き出す考えの人が多い。」(人材派遣会社)、「採用数が減少している。」

(求人情報誌製作会社)等の理由から、「やや悪くなっている」の回答の割合が増加したため、前月を4.4ポイント下回る50.0となった。

| | 12月 | 11月 | 前月差 |
|------------|------|------|------|
| 合計 | 46.9 | 50.0 | -3.1 |
| 家計動向関連 | 45.5 | 49.4 | -3.9 |
| 企業動向関連 | 50.0 | 50.0 | 0.0 |
| 雇用関連 (参考値) | 50.0 | 54.4 | -4.4 |

■景気の先行きに対する評価

現在より3か月先の景気の先行きに対する評価は次のとおりであった。

景気の先行き判断D I (合計)は、前月を1.2ポイント下回る49.4となった。

分野別にみると、家計動向関連は、「良くなる」「やや良くなる」の回答の割合が減少し、「早い時間のディナータイムの利用は増加しているが、21時以降の売上が前年の70%となっている。ランチタイムは好調で、団塊世代の客が増加している。新年会、送別会、卒入学などのニーズはあるが、人材確保が課題となっている。人件費が経営を圧迫しないよう店休日の増加、営業時間の短縮も検討しなくてはならず、営業体制の維持が難しくなり、経営は厳しくなる。」(一般レストラン)等の理由から、「やや悪くなる」の回答の割合が増加したため、前月を2.3ポイント下回る48.1となった。

企業動向関連は、「やや悪くなる」の回答の割合が減少し、「年度末に向けた需要の高まり、消費税の引上げ前の駆け込み需要、改元による特需での景気回復に期待が持てる。」(通信業)等の理由から、「やや良くなる」の回答の割合が増加したため、前月を1.5ポイント上回る52.2となった。

雇用関連は、「悪くなる」の回答の割合が減少し、「米中貿易摩擦、消費税の引上げなどの悪影響があるが、東京オリンピック、皇太子殿下の御即位、改元など景気を高揚させる材料が多々ある。」(新聞社)等の理由から、「良くなる」の回答の割合が増加したため、前月を1.4ポイント上回る52.9となった。

| | 12月 | 11月 | 前月差 |
|------------|------|------|------|
| 合計 | 49.4 | 50.6 | -1.2 |
| 家計動向関連 | 48.1 | 50.4 | -2.3 |
| 企業動向関連 | 52.2 | 50.7 | 1.5 |
| 雇用関連 (参考値) | 52.9 | 51.5 | 1.4 |